

かわせみ(日高市の鳥)

January 2010

12号

<http://www.saitama-med.ac.jp/kokusai/index.html>

埼玉医科大学

国際医療センターニュース

INTERNATIONAL MEDICAL CENTER NEWS



お正月ならではの装い(正面エントランスホール)

CONTENTS

- 2P 新年のご挨拶: 病院長 松谷雅生
開設3年目を迎えて: 看護部
- 3P 診療科のご紹介: 呼吸器外科
: 消化器内科
- 4P 世界的に大流行する新型インフルエンザ: 薬剤部
- 5P 医薬品の安全使用・管理の取り組みについて: 薬剤部
- 6P 尿素呼気試験導入のお知らせ: 中央検査部
- 7P 医療費の控除についてご存知ですか?
: 総合相談センター・がん相談支援センター
- 8P 「ウクレレ(演奏会)」コンサート開催: 総務課
紹介・予約制について/面会について: 医務課

- 基本理念** : 患者中心主義のもと安心して安全な満足度の高い医療の提供をし、かつ最も高度の医療水準を維持する。
- 使命** : 当センターは、埼玉県全域を範囲とし、がん、心臓病に対する高度専門特殊医療に特化し、かつ高度の救命救急医療を提供する。
- 基本方針** : 患者中心主義(patient-oriented)を貫き、あらゆる面で“患者にとって便利”であることを主眼とし、患者ひとりひとりにとって最も適切な医療を提供する。



当センターは、紹介・予約制です。

Saitama Medical University International Medical Center

新年のご挨拶



皆様に新年のお祝いを申し上げます。

国際医療センターは、昨年4月に開院3年目にして予定病床数の600床を開き、早期の入院を希望される皆様の期待に応えられる体制を構築致しました。病床数が増えた分、手術を

含めた治療件数が増加し、皆様方のご要望に応えられたと考えております。

この国際医療センターニュースは年に4回発行し、診療科や治療・検査方法の解説と共に療養生活に役立つ記事を掲載しております。昨年の発行誌をひもときますと、8号には「糖尿病検査（糖負荷試験の時に飲む薬）」、9号には「PET検査とMRI検査の説明」、8号から11号を通じて「血液検査の説明（どの検査はどの臓器の働きを調べるのか？）」、「輸血治療の紹介」、10号には「入院費について」、11号には「糖尿病とくすり」、「婦人科がんの国際共同臨床試験」などを掲載しております。本号には「世界的に大流行する新型インフルエンザ」「医薬品の安全使用・管理の取り組み方」「医療費の控除について」などを取り上げました。このような情報誌は、最初ページを

病院長 松谷 雅生

繰った時は見逃していた記事でも、後で必要であったと後悔することが少なくありません。そのような場合は、ロビー1階の総合コンシェルジュにお問い合わせ下さい。また3階ラーニングセンターには第1号からのバックナンバーを揃えてあります。インターネットをお使いの方は本院のホームページ(<http://www.saitama-med.ac.jp/kokusai/>)から「センターニュース」をお開き下さい。全ての発行誌をご覧ください。

昨年は新型インフルエンザが日本中で流行し、当院で治療中の皆様も心配されたことと存じます。当院では早々と毛呂山キャンパスの大学病院および医師会の先生方と密な連携治療体制を作り、共同して通院中の方々と近隣にお住まいの方々の診断、治療、そして予防（ワクチン接種）を行ってまいりました。寒い時期を迎えてまだまだ油断はできませんが、皆様の健康を守るため努力してまいります。

本誌の記事についてのご提案は巻末の総務課にお寄せ下さい。皆様と共にこの小冊子を育て、わずかでも医療の進歩に貢献できることを祈っております。



開設3年目を迎えて

看護部

総看護師長 齋藤 栄子

平成19年4月1日の開院初日は、埼玉医科大学病院より93名の患者さんを受け入れるために、転院搬送に追われていたことを昨日のこのように思い出します。

開設3年目で看護師採用が順調に進みましたので、計画に沿って600床を稼働させることができました。増床の折に多くの皆様に協力やご支援をいただき厚く感謝申し上げます。短期間で増床しましたので整備に不備がありご迷惑をおかけしているかと思いますが、患者さんに満足には及びませんが納得していただける看護を提供したいと思います。その1つとして、ご意見箱を通じて看護部に感謝の言葉や苦情など様々な意見を寄せていただいています。しかし、

まだまだ改善に向けて努力しなければならない点が多く残していますが、今後も懲りずにたくさんご意見を寄せていただきたいと思えます。

今後、医療チームの一員として貢献できますよう、人間性豊かな看護師育成をめざして努力を続けますので宜しくお願いいたします。



診療科のご紹介

呼吸器外科

ホームページ： http://www.saitama-med.ac.jp/kokusai/division_info/37.html



胸腔鏡手術の様子

呼吸器外科では肺癌・転移性肺腫瘍・縦隔腫瘍・胸膜中皮腫といった胸部腫瘍の手術を主に行っています。このほか自然気胸・内科治療抵抗性の限局した炎症性肺疾患の外科治療や未診断の肺結節影・胸膜炎、間質性肺疾患等の胸腔鏡下手術診断など広く扱っています。

6名のスタッフは外来診療・気管支鏡検査・手術・術後管理に追われる中、教育にも熱心であり、穏やか且つ丁寧な雰囲気から学生の評も良く、毎年多くの研修医がローテーションとして希望してきています。

毎週土曜日には呼吸器合同カンファレンスを行い呼吸器内科・外科だけでなく、画像診断科、放射線腫瘍科、腫瘍内科、病理診断科、脳脊髄腫瘍科等各専門領域の横断的な話し合いで患者さんに最も適した治療方法を決定しております。

当院呼吸器外科の特徴としては切除可能かどうかの境界領域の進行病変症例でも呼吸器内科、放射線腫瘍科など専門領域の診療科と力を合わせて、積極的に取り組んでいることがあげられます。治療の難しい胸膜中皮腫に対する胸腔内温熱化学灌流療法を組み合わせた集学的治療もその一つです。高齢化に伴い低肺機能・心疾患・血液透析・糖尿病など様々な合併症を持った患者さんが増加しており、患者さんに応じた手術の工夫（低侵襲手術）とともに術前術後の呼吸リハビリや他科との連携をととても大切にしています。

包括がんセンター設立後、原発性肺癌症例の紹介及び他臓器からの転移性肺腫瘍の切除依頼が年々増えています。当科は、術後フォローアップを含めて地域病院のとの連携を大事にしており、地域を含めた包括的医療の向上を目指しています。

診療科のご紹介

消化器内科

ホームページ： http://www.saitama-med.ac.jp/kokusai/division_info/26.html

消化器内科は主に食道、胃、大腸の癌と胆道系など消化器がんの診断と内視鏡を用いた治療を行っています。食道、胃、大腸などに腫瘍が発見された患者さんが来院されると、外来で内視鏡検査やCTなどの画像検査を行い、病変の正確な診断を行っています。内視鏡検査では特殊光観察や拡大観察、超音波内視鏡など最新の内視鏡機器を用いた詳しい検査を行います。検査結果を内科、外科、病理の合同カンファレンスで検討し、患者さんと十分に相談したうえで内視鏡切除や外科手術などの治療法を選択していきます。

内視鏡治療の適応と判断された病変に対しては当科で治療を行います。主な治療は食道、胃、大腸の早期がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）や粘膜切除術（EMR）であり、内視鏡検査治療室の習熟したスタッフが安全かつ確実な治療を行っています。外科手術やそのほかの治療が必要な場合は担当科、担当スタッフと綿密な連絡を取りあって治療を進めていきます。

また胆道系腫瘍やそれによる黄疸のある患者さんに内視鏡や超音波内視鏡等を用いた診断および内視鏡や腹部超音波を用いた減黄術（ERCP, PTBD）を行っています。さらに消化管の粘膜下腫瘍、腹腔内の腫瘍やリンパ節を内視鏡下に穿刺し細胞を採取する超音波内視鏡下穿刺（EUS-FNA）を行うことで、患者さんに負担の少ない診断が可能となっています。

内視鏡を用いた低侵襲の診断・治療はこれからますます必要とされる分野であり、当科では、内視鏡関連の最新機器を活用し、内科、外科、病理、および診療他科と連携しながら患者さんにとって最適な検査・治療を行っています。

内視鏡を用いた治療の例（ESD）



世界的に大流行する新型インフルエンザ

薬剤部

インフルエンザとは、インフルエンザウイルスが体内で増えて熱やのどの痛みなどの症状を引き起こす病気です。一度かかるとその原因となったウイルスに対して抵抗する力（これを免疫といいます）が高まります。従来から流行っている季節性インフルエンザに対しては、多くの人が免疫をもっています。

2009年の春に発生した新型インフルエンザは、これまで一度も流行したことがない新しいタイプです。そのため、誰もが免疫をもたないと考えられています。

かかったときの症状は、季節性インフルエンザとほぼ同じです。主な症状として突然の発熱や咳（せき）、のどの痛み、倦怠感（だるさ）など。鼻みず、鼻づまりや頭痛なども見られます。多くの方は、かかって数日間で軽症のまま回復しています。ただし、一部の方で重症化することがあるので注意が必要です。とくに、糖尿病や喘息などの持病がある方や妊婦、幼児や高齢者は、重症化する可能性がその他の方々に比べて高いということです。感染予防を心がけ、かかりつけの医師がいる方は、発症時の対応についても相談しておきましょう。



【感染経路】

飛沫感染（感染している人のくしゃみや咳で出るしぶきを吸い込むことによる感染）と**接触感染**（感染している人の唾や鼻みずが手から手へ、あるいはドアノブやつり革などを介して手に付着することなどによる感染）が考えられます。インフルエンザは、ウイルスが手に付着しただけで感染することはありません。ウイルスが付着した手で、口や鼻、目などの粘膜を触れることで感染します。ですから、こまめな手洗いが接触感染のリスクを減らすことになります。

【ワクチン】

国民の大多数に免疫がなく、感染が拡大する可能性があることや、糖尿病や喘息などの基礎疾患を有する方や妊婦などが重症化する恐れがあります。新型インフルエンザワクチンの接種は、死亡者や重症者の発生をできる限り減らすことと、患者数の急激・大規模な増加を抑制し、医療機関の負担の軽減を図ることを目的としています。ワクチンの予防効果が期待できるのは接種後2週から5ヶ月程度と考えられています。ちなみにワクチンを接種してもインフルエンザに罹ることはあります。



【治療薬】

主な治療法は抗インフルエンザウイルス薬（タミフル・リレンザ）の投与です。これらの薬は、医療機関等において医師が必要と認める場合に処方されます。また、症状を緩和させる目的で、解熱薬や去痰薬、鎮咳薬などが処方されます。妊婦や乳幼児に対する処方については、副作用のリスクを見極めながら、医師が投与の判断をすることになっています。

①タミフル（飲み薬）：

一般的なインフルエンザウイルスに有効な世界初の経口抗インフルエンザウイルス剤です。最近ではタミフルが効かないインフルエンザウイルス（耐性ウイルス）



も確認されています。副作用の1つと言われている「異常行動」との関連は不明ながら10代の患者さんが服用する場合には保護者が目を離さないよう注意が必要です。

②リレンザ（吸入薬）：

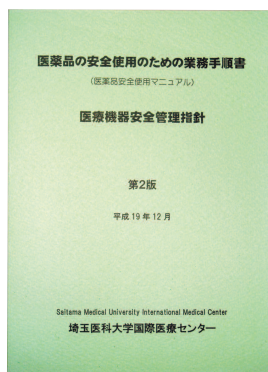
ほとんどのインフルエンザウイルスに有効なドライパウダーを吸入する抗ウイルス剤です。吸入しづらいことはありますがタミフルのように耐性ウイルスの報告は現時点ではありません。



医薬品の安全使用・管理の取り組みについて

薬剤部

平成18年に「良質な医療を提供する体制の確立を図るための医療法等の一部を改正する法律」が成立し、翌年4月より全ての病院の管理者には医薬品・医療機器の安全使用、管理体制の整備に関する「医薬品・医療機器の安全使用のための業務手順書」の作成が義務付けられました。この法律では患者さん中心の医療サービスと質の高い医療を提供するために、特に医療安全が重要視され、業務手順の標準化、安全教育、記録の充実等が求められています。この法律の施行とともに開院した「埼玉医科大学国際医療センター」においては最新のシステム、設備・機器を備えた病院として職員全員にこの手順書を配布し、安全な医療の提供ができるよう日々努力しております。



次に医薬品管理についてお話します。薬には、「市販薬（一般用医薬品）」と「処方薬（医療用医薬品）」があります。市販薬とは薬剤師又は登録管理者（但し登録管理者は第二類および第三類一般用医薬品の販売に限り、処方箋に基づく薬の調剤は不可）の管理の下、薬局及びドラッグストアで、だれもが自由に買える薬のことです。そのため一般的に効果を抑え、安全性を重視したものになっています。反対に処方薬とは病院で診察を受け医師から処方される薬のことで、特定の症状に対して効果が期待でき、患者さん1人1人の体質に合わせて使用できる薬です。

そのため薬の効き目が強く、医薬品代が高額になっています。さらに薬も食品と同じように有効期限（食品は賞味期限）や保存方法（光、冷蔵、冷凍など）などがありますので管理が必要です。また、地震などの災害時に一人でも多くの患者さんに薬が提供できるように在庫の調査・管理を行っています。このように薬剤師は患者さんが安心して薬物治療が受けられるよう日々、薬を管理しています。

＜安全な薬物治療の提供について＞

当院では入院されている患者さんが安心して薬物治療が行えるよう全病棟に薬剤師を配置しています。全国的にも珍しい病院となっています。

一般的な病院では入院患者さんの内服薬・注射薬の管理を看護師が行う施設が大半を占めますが当院では全て薬剤師が行っています。

病棟薬剤師が入院患者さんのベッドサイドに訪問し服薬指導を行う事で患者さんが不安なく薬を服用できるように心掛け、さらに会話の中で副作用の発現が無いかを確認する事も薬剤師として重要な医薬品管理の一環と考えています。外来患者さんにおいては患者さんのニーズに合わせ、お薬相談室において服薬指導を行う等の対応をしています。



私たちは患者さんにとって、安全で安心な医薬品使用・管理が出来るように全力を尽くしていきたいと考えています。

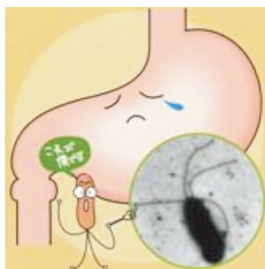
尿素呼気試験導入のお知らせ

中央検査部

当院、C棟2階生理機能検査室でヘリコバクターピロリ菌の検査として、尿素呼気試験が8月3日より運用開始となりました。

1. ヘリコバクターピロリ菌とは

ヘリコバクターピロリ菌とは、強い酸性の胃の中にかかわらず自ら住みやすい環境を作り出して生息できる細菌です。1982年に、オーストラリアのマーシャル先生とワーレン先生が発見しました。2005年マーシャル先生たちは、この業績によりノーベル賞を受賞した事は有名です。ヘリコバクターピロリ菌は、胃の壁を傷つけ、胃を守っている粘液を減らし、酸の攻撃を受けやすくしてしまうので、胃炎や消化性潰瘍を発生させる要因になります。またヘリコバクターピロリ菌感染者には、胃癌の発生が多いこともわかっています。慢性萎縮性胃炎の人では100%、胃潰瘍の人では70～90%、十二指腸潰瘍の人では90～95%に、ヘリコバクターピロリ菌の感染がみられます。日本は、欧米と比べて感染率が高く、50代以上



の人では70～80%が感染しているといわれています。

2. 尿素呼気試験とは

朝空腹時に、炭素の同位元素からできているユービットという錠剤（尿素製剤）を内服して、前後の吐く息をバックに集めて、ヘリコバクターピロリ菌による尿素的分解が行われたかどうかを検査します。（検査で使用するお薬は人体に悪影響はないので、ご心配は無用です。）検査時間は約20分、結果は数分でわかります。内視鏡は使わず、薬を飲んで息を吐くだけの検査ですので非侵襲的であり、朝食抜きで来院されれば当日検査可能です。（胃内視鏡検査、消化管X線造影検査後の場合、別日検査となります。）



検査時は左を下に5分間寝て頂き、座位にて15分間の姿勢を保持します。

検査について、ご不明な点がございましたら担当医師にご質問下さい。

ノロウイルスによる食中毒に注意しましょう

栄養部

ノロウイルスによる食中毒は冬場に多く発生する傾向がありますのでご注意ください。

- ヒトから排出されたウイルスが、河川を経て海たどり着くと、カキなどの二枚貝の中腸腺という内臓に取り込まれます。そのウイルスを取り込んだカキなどの二枚貝を不十分な加熱で食べることににより、感染します。
- ノロウイルスに感染したヒトが、用便後の手洗いが不十分なまま料理をすると、食品がウイルスに汚染され、その食品を食べることにより、感染するおそれがあります。
- ノロウイルスに感染したヒトのおう吐物にはウイルスが含まれています。そのおう吐物の処理が不十分だと、ウイルスが乾燥して舞い上がり、直接ヒトの口から取り込まれ感染するおそれがあります。

【ノロウイルスの特徴】

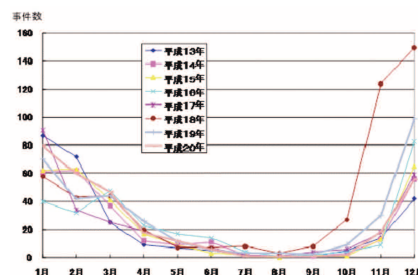
- ウイルスが体内に取り込まれてから、24～48時間で発症します。（症状がなくても、便の中からウイルスが検出されることがあります。）
- 主な症状は、下痢、吐き気、おう吐、腹痛、発熱（38℃以下）など、風邪に似た症状です。
- 秋から冬にかけて、生カキを原因食品とした食中毒が多く発生します。

【予防方法】

- カキなどの二枚貝を加熱する場合は、十分に加熱してから食べること。（85℃以上で1分以上）
- トイレの後、調理をする際、食事の前にはよく手を洗いましょう。
- 手洗いの後、使用するタオル等は清潔なものを使用しましょう。

【二次感染を予防するために】

- おう吐物や、ふん便で汚れた衣類等を片付けるときは、ビニール手袋、マスクなどを着用しましょう。
- おう吐物などを片付けた用具、雑巾類は、塩素系漂白剤でつけ置き洗いをしましょう。
- おう吐物などで汚れた床は、塩素系漂白剤を含ませた布で被い、しばらくそのまま放置して消毒しましょう。
- 汚物の片づけが終わったら、よく手を洗い、うがいしましょう。



ノロウイルスの月別事件数の年次推移 (厚生労働省統計より)

医療費の控除についてご存知ですか？

2009年はどんな1年になりましたか？昨年の出来事を思い返すとき、ぜひ医療費についても一緒に振り返ってみて下さい。1年間にかかった医療費の合計が高額になった場合、税金が戻ってくる（控除（こうじょ））があります。今回はその医療費の控除についてご案内します。

医療費控除を申告すると

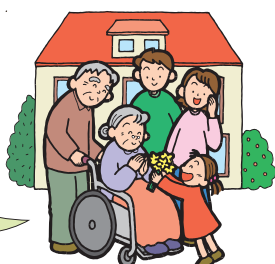
患者さんや生計を一にするご家族*が1年間（1月1日～12月31日）で合計10万円を超える医療費を支払った場合、それを税務署へ申告することで、すでに納めた税金の一部が戻ってきます。

【計算方法】

- ① その年に支払った医療費－高額療養費還付金や生命保険金などで補てんされる金額＝A
- ② A－10万円（所得が200万円以下の場合はその5%）＝医療費控除額

※ 生計を一にするご家族とは、日常の生活費を共にしている方を指します。

家族みんなの医療費を
合計して10万円以上が
目安なんだね。



控除の対象となるもの

控除の対象となる医療費は、病院で支払った費用だけでなく様々なものがあります。

【対象になるもの】

- ・ 医師、歯科医師による治療費、院外処方による薬代
- ・ 薬局で買った風邪薬、胃薬、傷薬
- ・ バスや電車を利用した場合の通院費
（一人では通院できない場合は付添人の交通費も含む）など

【対象にならないもの】

- ・ 診断書の作成費
- ・ 予防や健康増進を目的とした医薬品
（ビタミン剤やインフルエンザワクチンなど）
- ・ 自家用車での通院のガソリン代や駐車代など

手続きに必要なもの

- ① 給与所得の源泉徴収書
- ② 確定申告書（税務署ホームページからダウンロード可能）
- ③ 医療費の明細書（税務署ホームページからダウンロード可能）
- ④ 医療費の領収書、レシート
- ⑤ 医療費を補てんするものの書類
（高額療養費還付金や生命保険金などの金額がわかるもの）
- ⑥ 銀行口座番号 ⑦ 印鑑

総合相談センター・がん相談支援センター

手続きの方法

所得税の確定申告は時期が決まっていますが、医療費控除の申告は年が変わればいつでも可能です。申告を忘れていた場合は、過去5年間分までさかのぼって申告することが出来ます。お住まいの地区を担当する税務署が申告窓口です。

この内容については、国税庁のホームページ（<http://www.nta.go.jp/>）や、当院入院時にお配りしている「医療費助成制度のご案内」の小冊子でも案内しています。

また、この医療費の控除について申請方法がわからない、あるいは他の制度についても情報が知りたいなど、医療費についてご相談がある場合は当院のソーシャルワーカーにお声掛けください。

相談センターをご利用いただくには…

◇ 相談日時をご予約下さい。

がんの患者さん、ご家族、地域の方、地域の医療機関や保健・福祉・介護等の関連機関の方

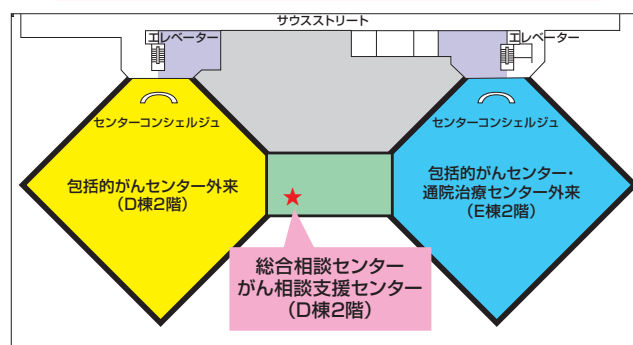
がん相談支援センター：TEL.042-984-4329（直通）

当院の心臓病センター、救命救急センター（脳卒中センターを含む）におかかりの患者さん、ご家族

総合相談センター：TEL.042-984-4106（直通）

◇ お急ぎの場合は直接おいで下さい。

注）利用方法や相談室の場所がわからない場合は、病棟・外来の医師や看護師、各コンシェルジュにお声がけ下さい。

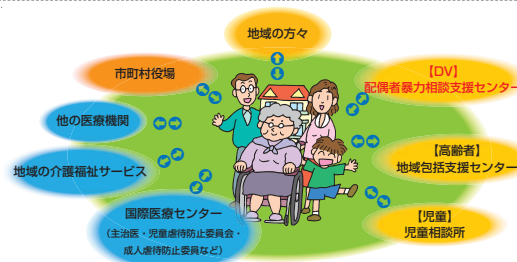


☆前号11号(5ページ)「虐待を防ぐために私たちにできること」に掲載した図に下記のように訂正があります。

誤
【DV】

地域包括支援センター ⇒ 配偶者暴力相談支援センター

正
【DV】



「ウクレレ（演奏会）」コンサート開催

総務課（広報担当）

去る11月21（土）、国際医療センター正面ロビーホールにおいて、第7回ロビーコンサート『ウクレレ演奏会』が開催されました。

ウクレレ同好会の仲間で結成されたグループの名は、“ウクレレ祭り53”^{ごじゅうさん}といいます。

おなじみハワイアンはもとより世界の名曲や日本の懐かしい唄など全10数曲を披露してくださいました。

特に興味を引いたのはハワイアンダンサー（2名）によるフラダンスです。普段みることのできない光景に、入院患者さんやその家族からも「大変珍しいものを見せてもらいました」と率直な感想を述べられました。また、ヒット曲“崖の上のポ

ニョ”では飛び入り参加の小学生（2名）に対して、客席から大きな歓声と拍手で大いに盛り上がりを見せました。



紹介・予約制について

医務課

当センターは紹介・予約制です

- ①紹介状
 - ②事前の予約
- が必要です

【外来予約センター】

心臓病・脳卒中センター	042-984-0474
包括的がんセンター	042-984-0475
通院治療センター	042-984-0475

面会について

医務課

【面会時間】

（平日） 午後 1時 ～ 午後8時
（土・日・祭日） 午前11時 ～ 午後8時

上記時間以外のご面会はお断りしております。

【面会受付】

C棟1階総合コンシェルジュにて受付をし、面会証を受け取り下さい。

- * ICU集中治療室等は、面会時間が別に指定されておりますのでご確認ください。
- * アレルギーや香りに敏感な患者さんもしらっしゃいますので、お花はご遠慮下さい。

- * 小学生以下（12歳未満）のお子様の面会をご遠慮いただいております。



埼玉医科大学国際医療センターニュース

January 2010 第12号【院内配布用】

編集・発行 埼玉医科大学国際医療センター総務課

住所：〒350-1298 埼玉県日高市山根1397-1

TEL：042-984-4128

FAX：042-984-0432

発行責任者 松谷 雅生

発行日 平成22年1月30日

※本紙記載の写真・記事の無断転載および、複写を禁じます。